

「釧路湿原自然再生協議会」

第 10 回 湿 原 再 生 小 委 員 会

資 料

平成24年1月18日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 10 回 湿原再生小委員会 －

日時：平成 24 年 1 月 18 日（水） 13：30～15：30

場所：釧路市交流プラザさいわい 3 階 大ホール

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

- 1) 幌呂地区湿原再生実施計画（案）について
- 2) 達古武湖における自然再生の取り組みについて

3. その他

- 1) 釧路湿原面積について

4. 閉 会

釧路湿原自然再生協議会
湿原再生小委員会 委員名簿

計：38名

■個人(16名)

(敬称略、五十音順)

No	氏 名	所 属
1	植村 滋	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
2	金子 正美	酪農学園大学 環境システム学部 地域環境学科 教授
3	亀山 哲	国立環境研究所 アジア自然再生研究グループ主任研究員
4	神田 房行	北海道教育大学 教授
5	木村 勲	
6	清水 信彦	
7	新庄 興	
8	新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員 (環境ファシリテーター)
9	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
10	辻井 達一	財団法人 北海道環境財団 理事長
11	中村 隆俊	東京農業大学 生物産業学部 講師
12	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
13	橋本 正雄	日本野鳥の会釧路支部 副支部長
14	松本 文雄	
15	矢部 和夫	札幌市立大学 教授
16	山田 浩之	北海道大学大学院 農学研究院 農林環境情報学研究室 助教

■団体(15名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 加藤 正道
2	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
3	財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
4	財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 有田 茂生
5	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
6	鶴居村タンチョウ愛護会	会長 松井 孝志
7	鶴居排水路維持管理組合	組合長 瀬川 勝巳
8	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
9	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
10	特定非営利活動法人 釧路湿原やちの会	理事長 杉山 伸一
11	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事表 百瀬 邦和
12	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
13	北海道標茶高等学校	校長 西田 丈夫
14	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
15	ボランティアネットワークチャレンジ隊	代表 佐竹 直子

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
2	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 瀧澤 義一
3	鶴居村商工会	会長 大津 泰則

■関係行政機関(4機関)

(敬称略)

No	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 本田 幸一
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 野口 明史
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	鶴居村	村長 日野浦 正志

湿原再生小委員会の検討経過

	議事
第 1 回 H16. 2. 17	1) 全体構想と小委員会との関わりについて 2) これまでの調査・検討経緯について (1) 広里地区湿原再生について (2) 幌呂川地区湿原再生について (3) 雪裡樋門湛水試験について 3) 今後の調査・検討方針について
第 2 回 H16. 6. 25	1) 平成 15 年度の調査・検討成果について 2) 平成 16 年度以降の調査・検討方針について 3) 全体構想との関わりについて
第 3 回 H17. 5. 11	1) 小委員長選出について 2) H16 年度調査検討結果と H17 年度調査検討計画について (1) 釧路湿原の面積について (2) 釧路湿原全域動植物調査の概要 (3) 広里地区 (4) 幌呂川地区 (5) 関連する農業整備事業について (6) 雪裡樋門地区
第 4 回 H20. 3. 3	1) 幌呂地区の変遷と現状 2) 幌呂地区で生じた現象と課題 3) 幌呂地区の湿原再生目標の設定 4) 広里地区の湿原再生
第 5 回 H21. 3. 18	1) 幌呂地区の湿原再生目標の概要 2) 幌呂地区 平成 20 年度の調査結果 3) 平成 21 年度の予定
第 6 回 H22. 9. 2	1) 幌呂地区湿原再生について 2) 広里地区湿原再生について 3) 釧路湿原の面積について 4) 5 年目の施策の点検について
第 7 回 H23. 1. 19	1) 幌呂地区現地植生回復試験について 2) 幌呂地区湿原再生について 3) 5 年目の施策の振り返りについて
第 8 回 H23. 4. 27	1) 幌呂地区現地植生回復試験について 2) 幌呂地区湿原再生のリファレンスサイトについて
第 9 回 H23. 10. 20	1) 幌呂地区湿原再生（基本方針）について 2) 幌呂地区湿原再生（実施方針）について 3) モニタリング計画について 4) 広里地区自然再生について （旧農地区域の湿原への再生、ハンノキ林の取扱いの検討） 5) 釧路湿原の面積について

第9回湿原再生小委員会の発言概要と今後の検討方針（案）

項目	発言概要	回答および今後の検討方針（案）	備考
幌呂地区湿原再生（基本方針）について	河岸の一部を切り下げて氾濫させやすくするという説明があったが、水質のことも検討した方が良い。	モニタリング計画に反映する。	
	大きな排水路へ地下水が流れ込むのを抑制するために、地盤の圧密や遮水など、何らかの方法を想定して計画を立てた方が良いと思う。	盛土等により排水路への流出を抑制する方針であり、実施計画（案）に記述する。	
幌呂地区湿原再生（実施方針）について	ブロックを細かく分けて、均すように掘削し、極端な地形を作らないようにするのが良いと思う。	実際に切り下げるときにブロックとブロックの間を滑らかにすることを検討する。	
	ホザキシモツケは、人為的な攪乱を受けた場所に生育する一過性の植物である。また、現在ヨシが生育している箇所は、将来、ムジナスゲやカブスゲが生育する本物の湿原になっていく可能性がある。	モニタリング調査で確認して行きたい。	
	現地の取り組みを社会的にどのようにマッチさせるのか、将来設計の中に入れていただきたい。	環境教育や観光との連携について実施計画（案）に記述する。	
モニタリング計画について	経年的にモニタリング調査を実施していくことになると思うが、結果をどのように広めていく考えなのか教えてもらいたい。	モニタリングの結果は、小委員会で報告していくことを考えている。	
	モニタリング計画を見ると、物理環境に関する調査項目しかない。水質、すなわち地下水の化学性に関する調査項目も入れていただきたい。そうしないと、仮に失敗した場合に、その原因が分からなくなり、見直しが困難になる。	モニタリング計画に反映する。	
広里地区自然再生について	- 遮水壁設置による環境影響については生態系への影響を考慮すべき。 - 広里にはタンチョウが住み着いていて、ほぼこの地域で生活を完結できている。	今後もタンチョウとの共生の方法を調べながら、環境への影響を配慮しつつ進めたい。	
	広里地区は現状でかなり自然な状態を保っているので遮水壁の設置には反対である。	標準区（1960年代後半）の植生への回復を目指してやってきたことをご理解願いたい。	

釧路湿原の面積 について	連続エリアと非連続エリアの定義が分りにくい。定義を明確にしてほしい。	連続エリアと非連続エリアの説明づけについて明確にし、釧路湿原の面積は報告通りで確定する。	
-------------------------	--	--	--